

マツの葉枯病類 (Brown Needle Blight in Pines)

Dothistroma septospora (Doroguine) M. Morelet

Lecanosticta acicola (Thümen) H. Sydow

Lophodermium conigenum (Brunaud) Hilitzer 他



葉枯病にかかった庭のマツ



枯れた葉

発生生態

赤斑葉枯病、褐斑葉枯病及び葉ふるい病の3種は、いずれも春～秋にマツの葉が枯れていく病気で、カビの感染により起こります。症状も似ており、前年に葉に小さな病斑が生じ、翌春以降、これが拡大して葉が枯れ、落葉します。直接木を枯らす病気ではありませんが、被害を放置しておくと、木が衰弱し、枯れることもあります。

防除対策

葉枯病になるマツは、もともと木が弱っていた可能性があります。剪定等はしばらく控え、冬に施肥や土壌改良を行って木を元気にします。また、病気の拡大を防ぐため、病気で落ちた葉を焼却したり埋めたりするとともに、葉枯が進行している時期(春～秋)にキノドー等の銅水和剤を2週間おきに散布して病気の拡大を防ぎます。